

モンキアゲハ（チョウ目，アゲハチョウ科）の塩分補給

Supply of salt by *Papilio helenus nicconicolens* Butler (Lepidoptera, Papilionidae)

久保田 信

主として関東以西に分布し南方系種のモンキアゲハ *Papilio helenus nicconicolens* Butler の1頭が、和歌山県白浜町の瀬戸臨海実験所の通称“北浜”で、2011年5月16日の8時22分に、潮の比較的よく引いた波打ち際に着陸して、1分ほど吸水した。その後、離陸して数 m 離れた陸側に着陸し、また1分ほど吸水した。その地点の砂浜は海水で十分湿っていた。再び離陸したが、約3 m 離れた筆者に気付き、あわてたように構内の植生のある方へ飛び去った。吸水場面を撮影できなかったが、毎日のように10年余り北浜で漂着物の観察などを実施している折に、チョウが海水を吸うのに遭遇したのは今回が初めてである。

続いて2011年6月6日の8時30分頃、1頭のモンキアゲハが、潮が余り引いていない“北浜”の船着き場のすぐ西側の岩場を、少なくとも数 m ほど数分ほど飛び回りながら、満潮線より少し高い砂浜で海水を少なくとも3回吸っていたのに遭遇した。

3度目は2011年6月27日の7時6分頃、1頭のモンキアゲハが、“北浜”の洞門の下の潮間帯にあるタイドプールのすぐ脇の緑藻がびっしり生えた岩礁部（図1）や岩と岩の間の砂地で、海水を3分間に5回吸水していた。

これら3個体のモンキアゲハは、早朝に、まだ一日の内で温度が高くない時に吸水したので、体温調節ではなく、海水の塩分は約32パーミルであろうから吸水するには塩辛いと思われるが、この個体のとった行動は塩分補給と推察した。

（くぼた しん 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所）